

第8回全国書写書道総合大会
令和元年度総合の部

【書字文化名誉大賞】

新潟県立長岡高等学校 1年
植木 萌心

これまでの努力が実を結び

このたびは、名誉大賞という大変素晴らしい賞をいただきありがとうございました。高校生になり初めての大会で、想像以上の評価をいただきとても嬉しく思います。

今回の硬筆の課題はとてもシンプルです。こんなに文字数が少ない課題は初めてだったので戸惑いましたが、「雪国」の美しい情景を思い浮かべながら、自分の良さである「やわらかさ」や「正確さ」を表現するにはどうしたらいいのか考えながらペンを動かしました。試行錯誤の結果、普段通り、細部にまでこだわることと全体のバランスが大切だと気付いたのです。

毛筆も、中学生までとは異なる点が多く、より芸術性が求められる中、勢いを感じられる筆の運び方や、墨のかすれ具合を表現するためにイメージを膨らませながら仕上げました。思うように筆が動かない時も多く苦労しましたが、一発本番の席書ではイメージに近い作品に仕上がったと思います。

学校の課題や模試などに追われ、年々、大会に充てる練習時間が減ってしまうのは仕方ないことかもしれませんが、その分、これまでの地道な努力が実を結びつつあると実感しています。これから先も書写書道を学べることに感謝しながら、ゆっくりと進んでいきたいと強く思いました。